

P.S. Ich erlaube mir, Ihnen einen Artikel "Deutsche Musik in Japan" zu senden, den ich kürzlich veröffentlicht habe, sowie zwei Zeitungsnotizen, die - gleichlaufend - in einem grossen Teil der deutschen Presse erschienen sind.

(手書き)

最近親しく御拜顔の榮を得ず又東京出發前お別れを告げることを得なかつたのは誠に遺憾で御座いました。それで何よりも先づもう一度御禮の辭を述べたいと存じます——ただに閣下が先日小生に與へられたる力強き賞讃のお言葉に對してのみならず閣下が當初より小生の仕事に示されたる總ての御好意と御信任に對して深謝致します。小生の努力に關してかくも光榮ある力強き御獎勵を閣下より賜はることは小生にとりて如何なる意義を有するかは申上げるまでもないと存じます。小生が貴校へ就任し活動を初めたる第一年を觀ると、閣下に依りて日本へ招聘され且つ小生がそれに應じ得る状態にありして小生にとりて誠に大變幸福なりしことを感じるものであります。多くの重大なる責務が小生の眼前に横たはれるを信じその達成のために小生の全力を傾注しようと思存じます。小生がこれまで成功して來たとおつしやつて表明せられた御満足に關して、小生は校長閣下に深謝し、將來に對して喜ばしき期待を有するものであります。

當地は日本海に臨み非常に景色美しき地で御座います。小生はホテルに宿り愉快に暮してをりますが、好天氣の際は誠に快適なる滞在であります。本月末迄當時に滞在致します。校長閣下が夏期中御健康にて御氣嫌よろしく御過しの程祈上げます。

敬具。

クラウス・プリングスハイム

追伸。小生が最近發表したる「日本に於ける獨乙音楽」と云ふ記事並に同様なる新聞切抜を閣下にお送り致します。これは獨乙の大部分の新聞に現れたものであります。

(手書き)

(「外國人教師關係 自大正十三年至昭和十一年」)

(十一) ヘルマン・ウィーハーpfennig Hermann Wucherpfennig

在職期間 昭和七年〜二十八年(一九三二〜一九五三)

備外國人教師

担当科目 独唱歌

履歷(要約)

一八八四年六月二十七日ドイツのミュールハウゼンに生まれる。

一九〇五年〜一九〇九年デッサウの宮廷劇場、一九〇九年〜一九二二年ニュルンベルク市立劇場、一九二二年〜一九二六年デュッセルドルフ歌劇場、一九二六年〜一九二二年ベルリンのシャルロテンブルク歌劇場にて専屬歌手として活躍した。

一九二二年ベルリン大学で哲学博士の学位を取得。

同年よりカールスルーエ国立歌劇場付となり、同地で声楽教師および演奏会歌手として活動した。

一九三二年(昭和七年)一月一日東京音楽学校にネットケレレーヴェの後任として雇い入れられた。採用決定後、一度辞退した後、再度承諾している。

一九四四年(昭和十九年)三月三十一日、契約期間満了につき解雇。

一九四六年(昭和二十一年)九月一日より、東京音楽学校に再び雇い入れられた。なお、同年から武蔵野音楽学校(現武蔵野音楽大学)でも教鞭をとる。

一九五三年(昭和二十八年)三月三十一日東京芸術大学退職。四月四日勲五等瑞宝章を受章。五月四日帰国。

一九六〇年(昭和三十五年)来日し二期会オペラを演出。
一九六九年没。

東京音楽学校より、在独の佐藤謙三宛に送ったネットケ・レーヴェ後任
探しの依頼状。

裁決定十二月三日 發送十二月三日

昭和五年十二月三日起案

年月日

學校長

佐藤謙三宛

拜啓初冬の候益々御健勝の段奉慶賀候也

陳者現在本校聲樂科擔任の傭外國人教師ネットケ夫人の傭入契約期
限は來る昭和六年八月末日を以て滿了可致に付ては之を機會として
該科教師の交替を行ひ其の授業の改善を圖り度希望に御座候 就て
は右後任候補者の豫選方を貴殿竝に福井直俊氏に御依頼申上度く存
候に付御繁用中恐縮に存候へ共御兩人にて御相談の上御配慮御煩は
し度切望致し候也大體當方の希望要件としてはソプラノ年齢參拾代
の女子たる事に有之候へ共御承知の通り最近本邦樂壇の進歩は相當
顯著なるもの有之普通の者にては到底本校教師としての任務を果す
事不可能と存候に付可相成技能優秀且教師として特に人物の適良な
るものを得度所存に御座候 何卒右事情御含みの上詮衡上十分御留
意被下候様致度 尙右教師に對しては毎月俸給金五百五拾圓、宿舍
料金四拾圓、來朝及歸國旅費各金壹千九百參拾圓支給可致見込に付
御了解の上宜敷御取計願上候也

右要旨御依頼申上度如斯御座候

敬具

追て本件は極秘を以て進行致度に付其の御含みを以て萬事御取扱
被成下度尙契約に關する手續等に付時日を要する次第も有之候間
可相成明春貳月中頃までに御回報被下度併せて御願申上候也

(手書き) (外國人教師關係 自大正十三年至昭和十一年)

〔佐藤謙三より乗杉校長宛書簡〕

東京音楽学校はネットケ・レーヴェの後任として女性教師を希望してい
たが、佐藤はあえて、かねてから日本行きを希望していたヴァーハープフ
エニヒを推薦した。

拜復

鳳稿本日拜受難有拜誦仕候先以て先生益々御精勵の趣拜承いたし
欣快比事と奉存候嚴寒の候邦家の爲の尙ほ一層の御自愛奉祈候
陳者御來諭の趣によれば目下の聲樂科傭教師ネットケ夫人との契約來
る昭和六年八月末日を以て滿了可致に付これを機會に新教師を招聘
して我樂園の空氣を一新しその進展を促進被遊度き御希望のよし而
してその人選條件として
一年齡參拾歲代の女子
二技術優秀にして且又教師として特に人物適良なるもの(即ち人
格者)
又右に對する報酬としては

一月報五百五十圓外に宿舍料四千圓

二來朝及歸國の際支給すべき旅費各壹千九百參拾圓

等の條件を以て新教師招聘の件については小生も不及ながらも福井君の驥尾に附いて碎身可致候間萬事同君に御委任あつて可然かと愚考任候

尤も小生としてはこゝには是非御紹介申上度き人物を存居候さりながらこれは残念ながら人選條件の第一に先以て不合格に御座候されど人物といひ又經歷といひ實に申分なき到底求めんとし不可能とも可申人物に有之候間一應お耳に入れ置き度と存候殊に聲樂科の教師が是非婦人に限る様のものではなく且又有名なる聲樂家は男女に限らず多くは男性の教師の門より輩出せるもの女性の教師に育まれたるものより多きは昔からの通相場にて(一寸一例を掲げ候ても Malibran - Maria Felicità の Manuel Garcia sen. に於ける又 Viardot-Michelle Pauline の同く Manuel Garcia に於ける Adelina Patti の Moritz Strakosch に於ける Sigrid Onegin の Eugen Rob. Weiss に於けるが如く) 歐羅巴にてはコロラテューアの如きさへ有名なる歌手は男性教師の薰陶によるもの多き有様なればこの點さへ條件を御変更相願へれば「恰も鑄型に入れたかの如く適應」するものかと愚考仕候本人はヴーハー・フエンニヒ (Kammersänger Dr. Hermann Wucherpfennig) と申し經歷は同封いたし置候本人の履歷書にある通り又技術方面は各地有名なる歌劇場に歴任し居る位なれば決して第二條件の前半を辱しむるものにては無之現在バーデン國カールスルーへの歌劇場勤務の餘暇妻君と共同して唱歌學校を經營いたし居る位なれば教育家としても相當の經驗あり且つ温厚篤實至つて眞摯一實は多くの女生徒を扱ふ上より見ても之が最大條件の一つと愚考仕候一なる中年紳士に有之候學歷は全

て獨乙中にて最も試験嚴格なる當伯林大學にてドクトル試験を通過し人物については伯林大學教授にして且プロシヤ國立圖書館音樂部長なるウォルフ博士 (Prof. Dr. Johannes Wolf) の推奨する所小生も實は同教授の紹介にて昨秋初めて同氏と相識るに至り申候當時同氏は日本音樂研究の爲め渡日し度き希望を漏らし徳川侯への面會を小生に依頼したるも侯は小生と十月上旬南獨ハイデルベルヒにてお訣れいたし候節の約束なる獨乙再遊を何等かの事情の下に果されずして南米へ發足せられ候爲め残念ながら同氏をお引合せするの機を失し申候この時同氏の話にては東京音樂學校の教師の席に萬一缺員のありたる場合には紹介を頼むと言はれ候に付小生は早速月給は五百圓位なれば御希望には副ふまじと申述べ候處報酬には格別の望みなしとの事この點が普通の獨乙人又猶太人とは大分變り居り小生も非常に惜しい人物とは思ひながらも目下空席なければとにかく貴下の御希望丈は徳川侯にお傳へすべしと申しお別れ申候非常に謙遜なる態度より見ても又金錢に對して淡泊なる點より見ても彼の性質は小生等日本人には非常に適當なる人物と被存候比點篤と御熟考相煩し度候實際相當なる音樂家を選定するといふ事は單に報酬の點より見ても可成困難と被存候手近き一例をあげても上野を出たる若き音樂家などにも一小生實は現在の風潮については一向無智には候へ共小生時代には少くとも一少々位報酬は悪くとも東京に残り度は人情にて刺撃少き地方に出で、は自己の樂人としての生涯を没落せしめらるゝ様に感じ居り候位に御座候殊に幾分にては自己の地盤を築き居り候獨乙樂人にとりては今中央樂壇より退いて數年を海外に送れば歸來到底昔日の地盤を得る事難ければ經濟上余程有利の條

件を以て誘ふより外に道なく常々比較的理性的なる獨乙樂人は月俸以外音樂會個人教授等他に相當の收入ありと申し候てもそれは政府及至學校にて保証せざる限りは必然的實收入として計算する能はずとて一蹴し去る様の有様なれば全然新しき人を求むるとせば今後二月迄の中に果して適當の候補者を發見いたし得るや否やは大に疑問と被存候比較的樂な候補者發見の方法は他にも多々有之例へば音樂學校事務校長シユーネマン博士或は武岡氏の師たりしシユナーベル夫人にでも依頼いたし候へば立所に數人の候補者を得られる事は火を觀るより明かには候へ共萬一その候補者小生等の考にて不滿の點ありとするも之を謝絶する事仲々困難なる事情起り來り場合によりては非常の不都合を惹起するやうの事と相成り候ては之又先生並びに日本の樂界に對して申譯無之次第と愚考仕候たゞ小生一個の愚見にては前記ヴーハーpfフェンニヒ氏は母校の聲樂科教師としては理想的人物の一人ならんかと既に昨年考へ居る所に御座候尙ほ場合によりては祕かにカールスルーへに下り舞台に於ける同氏の技術を聞きて御報告申上げても差支無之―實は明年二月上旬には小生ウエスファーレンのミュンスター大學に講演に參る序も有之候故折り返し御命令被下候ハバカルスルーへ迄遠征いたすべく候―萬端福井君並びに小生へ御腹藏なき御意見相洩し被下候はば幸甚の至りに奉存候

先は不取敢御諮問に應へ且つ比機に先年愚妻一寸歸朝の際の御厚情に對し萬謝の意を表し度如斯御座候

昭和五年十二月二十三日

伯林にて

敬具

佐藤謙三

東京音樂學校

校長 乗杉嘉壽閣下

同封書類表

A ヴーハーpfフェンニヒ氏履歷書

B ウォルフ教授推薦狀

C 新聞紙切抜四種〔省略〕

A

Dr. Hermann Wucherpennig

Bad. Kammer Sänger

Karlsruhe I. B.

Schloßbezirk 4,

Ich studierte Gesang bei Professor Rudolf von Milde -

Berlin und Professor Vittorino Moratti - Mailand. Meine

Bühnengagements waren: Hoftheater Dessau (1905 - 09),

Stadttheater Nürnberg (1909 - 12), Stadttheater Düsseldorf

(1912 - 16), Städtische Oper Berlin (1916 - 22), ab 1922 Lan-

destheater Karlsruhe. Von den Lehrjahren in Dessau ab-

gesehen, war ich stets in erster Stellung (Baßfach). Meine

Gastspiele und Konzertreisen führten mich durch nahezu

alle bedeutenden deutschen Städte; auch im Ausland war

ich mit Erfolg tätig und zwar mit Konzerten in Skan-

dinavien, bei Wagnerfestspielen in Budapest und mit einer

deutschen Tournée als I. Bassist und Regisseur in Buenos-

Aires. In meinem jetzigen Engagement führe ich neben meiner Sängertätigkeit auch Regie, bin Dozent an der Akademie des Badischen Landestheaters und halte Vorlesungen über Stimmphysiologie und Stilarthen der Oper. In Gemeinschaft mit meiner Frau betreibe ich eine Gesangsschule, deren Schülerkonzerte in der Öffentlichkeit grosse Anerkennung finden. 1924 wurde ich zum Badischen Kammer­sänger ernannt. Während meines Berliner Engagements (1916 - 22) studierte ich an der Berliner Universität, u.a. hörte ich, für meinen Beruf besonders wichtig, 5 Semester Vorlesungen über Physiologie und Hygiene der Stimme und über Stimm- und Sprachstörungen bei Professor Dr. J. Katzenstein. In meinem Doktorexamen prüften mich die Herren Professor Dr. Johannes Wolf in Musikwissenschaft, Geheimrat Professor Dr. Karl Stumpf in Akustik und Tonpsychologie, Professor Dr. Petersen in Literaturgeschichte und Geheimrat Professor Dr. Riehl in Philosophie. Ich bin 1884 geboren, evangelisch und von tadellosem Rufe.

Als Referenzen gebe ich an:

- 1.) Herrn Professor Dr. Johannes Wolf, Berlin - Friedenau, Backerstr. 2,
- 2.) Herrn Professor Dr. Hans Joachim Moser, Berlin - Wilmersdorf, Brandenburgische Strasse 41,
- 3.) Herrn Geheimrat Professor Dr. Friedländer, Berlin - Eichkamp Neuffert - Allee 7,
- 4.) Herrn Hofrat Professor Dr. med. A.A. Friedländer,

Freiburg (Br.) Littenweiler - Herchersberg 20,
5.) Herrn Freiherrn von und zu Frankenstein, Generalintendant, München, Bayerisches Staatstheater.

B

Abschrift.

Berlin, den 30. Oktober 1929

Herrn Kammer­sänger Dr. Hermann Wuchterpfennig bestätige ich auf seinen Wunsch gern, dass er zwölf Semester an der hiesigen Universität Musikwissenschaft studiert und unter meiner Leitung promoviert hat. Er ist ein tüchtig begabter Musiker und ein guter wissenschaftlicher Kopf. Das Stimmphänomen hat ihn als Sänger von jeher ausserordentlich interessiert. Es hat darum nichts Wunderbares, dass er auf dem Gebiete der Stimmbehandlung ganz besondere Kenntnisse aufweist. Ich halte ihn für eine Stellung als akademischer Lehrer der Sprech- und Singekunst für ganz besonders geeignet und empfehle ihn aufs wärmste.

gez. Univ. Prof. Dr. Johannes Wolf.

(「外國人教師關係 自大正十三年至昭和十一年」)

[採用辞退に関する東京音楽学校規程書簡]

ウーノンブノエニコは採用辞退の理由を、メインの年金との関係と説明している。

Lignano li 15. Juli 1931

Hochgeehrter Herr Direktor!

Ich habe Ihnen heute ein Telegramm geschickt des Inhalts, daß ich die Stellung in Tokio nicht antreten kann. Damit habe ich zum ersten Male in meinem Leben mein Wort gebrochen und bitte Sie, zu glauben, daß nur sehr schwer wiegende Gründe mich zu diesem Schritt bestimmen konnten.

Ich beziehe von einem deutschen Staat eine Pension, die für meine Frau und mich Sicherung für meine größte Sehnsucht.

Verzeihen Sie also vielmals, wenn ich Ihnen Angelegenheiten bereitet habe, hätte die Entscheidung nicht so geeilt, so wäre vielleicht eine andere Lösung möglich gewesen, vielleicht durch Fürsprache des Auswärtigen Amtes in Berlin bei der badischen Regierung.

Meine Adresse bleibt bis 15. September:

Lignano (Latisana)

Friuli Italia

Hotel del Duce

Mit dem Ausdruck vorzüglichster Hochachtung

Dr. Hermann Wucherpfennig.

〔手書き〕〔外国人教師關係 自大正十三年至昭和十一年〕

〔ヴァーハー・ペンニヒ採用の電報（昭和六年十月二十五日付）〕

49 BERLINCHARLOTTFENBURG 485 6W 25 10 40 NGG

LCD ONGAKUGAKKO TOKIO

ワッペンペンニヒ 採用シタ 旅費送テ
WUCHERPENNIG SAYOSHITA RYOHIOKURE

〔外国人教師關係 自大正十三年至昭和十一年〕

功績調書

外国人教師

ヘルマン・ワーハーペンニヒ

Hermann Wucherpfennig

右者 西曆一、八八四年六月二十七日独乙国チューリンゲン州ミュールハウゼン市に生れ、トルガウ及びツァイツの高等学校に学び後柏林大学に於て哲学を学び、九二二年同大学に“Johann Friedrich Agricola”なる論文を提出して哲学博士の学位を受へ。又デッサウに於てルトルフフォンミルゲ教授に就き、柏林に於てヴァイトリノモラツテイ教授に就き声楽を修め、声楽教師、歌劇場舞台監督等を歴任し、斯界に於ける第一人者として活躍していたが、来邦の望み切なるものあり、たまたま東京音楽学校に於て声楽担当の外国人教師招聘の熱望に一致し、これに応え氏の前記せるが如き確乎たる地位と名声をも顧みず然も同校教師としての薄給の身分にも甘んじて学問に対する情熱はよく同校よりの招聘をうけ昭和六年末故国を離れ本邦に向い、同七年一月一日より東京音楽学校声楽担当の傭外国人教師として就任し、同十九年三月三十一日まで引き続き十二ヶ年三ヶ月を一意生徒の指導に当り、その間昭和七年十一月には早くも奏任扱となり、同十五年二月にはその功の顯著なるものあり奏任五等をもつて待遇する。

然るに大東亜戦争に引き続き、第二次世界大戦に突入するや戦争もその熾烈の度を増し、同校に於ける業務も一時停屯するの止むなきに至り備継ぎ期間満了と共に一時離職したるも昭和二十一年九月一日学業の平常に戻るや一早く再度同校に於て教鞭をとるに至り、昭和二十六年四月よりは東京芸術大学音楽学部の声楽科の学生も併せ担当し、昭和二十八年三月契約満了と共に帰国を決定す。

この間六ヶ年七ヶ月、来校以来実に十八ヶ年十ヶ月の永きに亘り東京音楽学校並びに東京芸術大学音楽学部の学生生徒の声楽指導に当り専ら声楽家教育にその心血を濺ぎ常に真摯なる態度をもつて終始した。

なお、その間一、九五二年芸術祭に際しては参加オペラ「フィガロの結婚」公演に当つて本邦に於ける最初の本格的演出を指導した。このことは以来我が国のオペラ演出の上に大いなる示唆を与えつつあるが今后も大いに斯界における指針として貢献するところあるものと信ず。

同氏の門弟中今日既に本邦に於ては言を俟たず、やがては世界の声楽界にデビューせんとする有名且つ有望なる声楽家として三宅春恵、柴田睦陸、伊藤武雄、園田誠一、平原壽恵子、川崎静子、佐々木成子等がいる。

又同氏の永年勤続並に我が国において音楽教育に貢献した功に對し、昭和二十八年四月四日勲五等に叙され瑞宝章を贈与された。

なお明治二十年四月以来東京音楽学校に勤務した音楽担当の外国人教員四十四名中、勤務年数実に十八年十ヶ月で最も長く十七年を

越える者は僅かに氏一人である。

十九年に及ぼんとするウーハーペニツヒ氏の勤務年数は同氏の教育に對する熱意の深さをうかがうに足るもので、その間我国において直接氏の指導をうけた者実に三百五十余名、その上本邦においては同氏以前には本格的男声歌手を育て上げた者なく現在において第一線に活躍中の柴田、伊藤、園田氏等本格的男声歌手は全く同氏の教育指導により育てられたものである。

氏の声楽面における特異かつ適確なる指導は従来在日していた外国人教官の欠陥であつた声のくらさと声域の狭さを解決して、あかしく、広い声色と声域とを我国声楽界にもたらした。

なお氏の指導は前記の外、その教育範囲がきわめて広く古典音楽は勿論、近代音楽にまで及んだ。又我国オペラ界の本格的指導は前にも述べた処ではあるが実に氏を以て他になく斯界の先覚者パイオニヤーと称して決して過言ではないと断言するものである。

以上は同氏の本邦における声楽教育の一端としてこゝに附言する。

〔和文タイプ。使用漢字は原資料に従つた〕

〔東京藝術大学音楽学部庶務課資料による〕

(十二) マリア・トル Maria Toll

在職期間 昭和七年〜十三年 (一九三二〜一九三八)

傭外国人教師

担当科目 独唱歌